

古くて、新しい

古道具・家具で親しむ 昭和レトロ

古民家ブームの後押しもあり、注目が高まる古道具。長い時間をかけ、日常生活の中で大切に使用されてきた家具や道具には、新品にはない味わいが満ちています。

「一点豪華主義」で始めるレトロ空間作り 一戸町・ベリーファニチャー

一戸町の国道4号沿い。古いドライブインを再利用した大きな倉庫に500点ほどの家具が並び「ベリーファニチャー」。そのほとんどが1960年～90年代に作られたユーズド家具です。

店長の紺野義昭さんは50歳。「若かった頃は高価で手が出なかったあこがれの家具ばかり。今ならちょっとぜいたくな空間を楽しみたいという人たちにオススメしています。年配の人には懐かしく、若い世代の人にとっては新鮮でおしゃれに感じるようですよ。」

「ベリーファニチャー」の紺野義昭さん。今年、盛岡で開催した展示会では「懐かしい」と好評で、岩手にはユーズド家具好きの人が意外に多いことを実感したそう

メインで扱うのは「カリモク」「天童木工」など、国産ブランド家具。主にインターネットで販売していますが、「質感を自分の目で確かめたい」と、全国からファンが訪れるとか。「カフェや店舗で使いたいという人が多いですね」。

場の雰囲気にすっとなじむのが古い家具の良さ。特に椅子は現代のライフスタイルにも合わせやすいと紺野さん。「レトロな雰囲気が好みなら、まずは『一点豪華主義』で椅子から取り入れてみては。包み込んでくれるようなデザインが多いので、この椅子が待っていると思うと家に帰りたくなりますよ」。



木のアームと深いグリーン生地との組み合わせがまさにレトロな雰囲気

「カリモク」の60年代の絵になるソファ(左)と、背もたれの曲線が美しいチェア(右)



表情がそれぞれ異なる木の丸椅子。ほとんどが50年代に食堂などで使われていたもの。7800円～



ロッキングチェア。これほどの種類がひとつの店にそろうのは珍しいとか



ベリーファニチャー

一戸町岩館字田中62-2

☎0195(26)8511(13時以降)

<http://www.kagu-berry.com/>

発想の転換で、古道具の新しい魅力を提案

水沢・古道具FUCHI

今年7月、水沢駅東口にオープンした「古道具FUCHI」は、もとは画材店のギャラリーだった場所をリノベーションした店。昭和の雰囲気たっぷりの掛け時計、タンス、カーテン生地、ガラス瓶…。店内には日常生活で実際に使われてきたさまざまな道具類が所狭しと並べられています。

「古道具のほとんどは近郊の農家や解体される家などから『レスキュー』してきたもの。並んだ商品を見て、うちにもあるから引き取りに来てと言われてたり、本来の使い方を説明してもらったり。お客さんから教えてもらうことも多いですよ」と、店長の久保友佳さん。今はもう使

わなくなったけれど捨てるのはもったい…。そんな古い道具でも、発想を変えればまだまだ使える宝物。「もともとの使い方を知らないからこそ、新しい使い方を思いつくのかもかもしれませんね」。

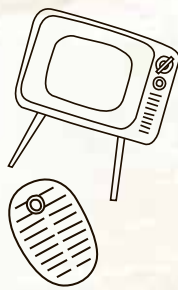
古い布団は中の綿を再利用してクッションに。牛の搾乳機はひっくり返して一輪ざしに変身！ 新たな役割を与えられた古道具は、なんだかみんなうれしそうな顔をしています。



店内は宝の山。お客さんは30~40代が中心です

古道具FUCHI

奥州市水沢区東大通り1-5-35 2F
☎0197(47)4158(カフェ&リビングUCHIDAと共用)
furudougu_fuchi/5633515018



これは昔の哺乳瓶。ガラス製。あるお宅の蔵に眠っていたもので、レトロ感たっぷり



使い古した道具にはびかびかの新品には出せない深い味があると話す、店長の久保友佳さん。「昔のものは作りが丁寧。捨てる前にどんな風に利用できるか、まず考えてみます」

新しい使い方をした古道具



牛の搾乳に使うステンレスの乳頭カップ。さかさまにしてみたら、なんとおしゃれな一輪ざしに！ もともとの用途を教わらなければ、牛の搾乳機だとは誰も気づかないかも。



利き酒の際、吐き出した酒を一時的に入れていたホウロウ容器。きれいに洗って、店ではペン立てに使用しています。ふた付きのホウロウ容器なので、調味料入れにもぴったり。



大きさが異なる古いガラス窓をパッチワークのように組み合わせて仕切りに使った例。「古道具FUCHI」の1階にあるカフェは、さまざまな古材をセンス良く活用しています。